

ドイツ語（初級B） 第18回 動詞の3基本形

範囲：教科書 S. 43-45（CDトラックなし）

《今回の基本例文》

なし

教科書第11課 A. 動詞の3基本形 (S. 43)

〈動詞の3基本形について〉（補足）

- ◇ 不定詞、過去基本形、過去分詞の3つを動詞の3基本形という。
    - \* 英語における原形、過去形、過去分詞の3つと同じ。ただし、ドイツ語では原形のことを不定詞と呼び（すでに学習した）、過去形も人称変化するため1人称単数のかたちを過去基本形と呼んでいる。過去形の人称変化については教科書第12課で扱う。
  - ◇ 3基本形の役割は、
    - ・不定詞：話法の助動詞やそれに準ずる動詞と併用（すでに学習した）、未来形に使用（⇒教科書第12課）、zu不定詞として使用（教科書第16課）
    - ・過去基本形：過去形（⇒教科書第12課）に使用
    - ・過去分詞：現在完了形、過去完了形（⇒教科書第12課）、受動態（⇒教科書第14課）に使用、形容詞として（⇒教科書第11課）使用
- があり、ほぼ英語と同じと考えてよい。今学期はこれらを学んで行く。
- ◇ 3基本形の作り方には、やはり規則変化と不規則変化があり、規則変化を弱変化と呼び、不規則変化を強変化と混合変化に分ける。sein、haben、werdenも不規則変化だが、これらとは別枠として考える。基本公式は以下の表の通り。

		不定詞	過去基本形	過去分詞
規則変化	弱変化	語幹+en	語幹+te	ge+語幹+t
不規則変化	強変化	語幹+en	変音した語幹+語尾なし	ge+変音した語幹+en
	混合変化	語幹+en	変音した語幹+te	ge+変音した語幹+t

- ◇ 不規則変化（強変化、混合変化、sein、haben、werden）に関しては、個別に覚えていくしかない。gehen – ging – gegangen のように、3基本形を順に唱えて暗記するとよい。

教科書1 規則変化動詞（弱変化動詞）

- ◇ 弱変化動詞は完全な規則変化なので、規則だけ覚えればよい。
- ◇ 語幹が-t や-d で終わるものについては、例えば arbeiten を例にとると、単に語幹+te だと\*arbeitte や\*gearbeitte となって発音しづらいため、語調を整える e を挿入し、過去基本

形を arbeitete、過去分詞を gearbeitet とする。日本語の感覚だと過去基本形が-tete となるのは奇妙に感じるかもしれないが、これで正しい。(⇒教科書 S. 9)

\*\*\*\*\*;  
**補足練習問題 1**

次の動詞の3基本形を答えよ (すべて教科書既出の規則動詞)。

1. lernen \_\_\_\_\_
  2. lieben \_\_\_\_\_
  3. kaufen \_\_\_\_\_
  4. küssen \_\_\_\_\_
  5. tanzen \_\_\_\_\_
  6. legen \_\_\_\_\_
  7. machen \_\_\_\_\_
  8. stellen \_\_\_\_\_
  9. waschen \_\_\_\_\_
  10. antworten \_\_\_\_\_
  11. kosten \_\_\_\_\_
  12. ändern \_\_\_\_\_
  13. angeln \_\_\_\_\_
  14. wandern \_\_\_\_\_
- \*\*\*\*\*;

**教科書2 不規則変化動詞**

- ◇ 以下、本日の配付資料2「不規則変化動詞のまとめ」も参照。
- ◇ a) **強変化動詞**は、語幹の母音を変化させて語尾を加えないかたちを過去基本形、語幹の母音を変化させて語頭に ge-、語尾に-en を加えたかたちを過去分詞とする。ただし、語幹の母音のみならず子音も変化するものもある。
- ◇ b) **混合変化動詞**は、語幹の母音を変化させて語尾-te を加えたかたちを過去基本形、語幹の母音を変化させて語頭に ge-、語尾に-t を加えたかたちを過去分詞とする。
  - \* 語幹が変化する点で強変化と同じ、過去基本形の語尾が-te で過去分詞の語頭と語尾がそれぞれ ge-, -t という点で弱変化と同じなので、混合変化と呼んでいる。
  - ・混合変化動詞の数は少なく、全部で9種類しかない。
  - ・ただし、6種類ある話法の助動詞は基本的に混合変化であり、それを加えると15種類になる。(⇒教科書 S. 48)
- ◇ c) **sein、haben、werden** については、教科書 S. 44 の表のまま覚える。
- ◇ **不規則変化動詞の3基本形は、教科書や辞書の巻末の変化表に記載されている。不規則動詞は全部で200個弱あるとされるが、教科書の変化表にあるのは125個で、そのうち50個が緑地になっている。この授業では、その緑地の50動詞を中心に覚えてもらう。**

教科書 3 分離動詞の 3 基本形 4. 過去分詞の形態についての注意 (S. 44)

◇ 分離動詞および非分離動詞の過去基本形、過去分詞は、基礎動詞 (前綴りをとった動詞本体) をもとにつくる。基本公式は以下の通り。

	過去基本形	過去分詞
分離動詞	基礎動詞の過去基本形 前綴り	前綴り+基礎動詞の過去分詞
非分離動詞	前綴り+基礎動詞の過去基本形	前綴り-ge+基礎動詞の過去分詞

要するに、非分離動詞の過去分詞には ge-がつかない。

◇ 分離動詞や非分離動詞の 3 基本形に関しては、次のような回路で考えればよい。

・分離動詞 *abreisen* は、*ab* が前綴り、*reisen* が基礎動詞である。

→ *reisen* は規則変化動詞なので、3 基本形は *reisen - reiste - gereist* である。

→ よって、上の基本公式から、*abreisen* の 3 基本形は *abreisen - reiste ab - abgereist*。

・分離動詞 *anfangen* は、*an* が前綴り、*fangen* が基礎動詞である。

→ *fangen* は不規則変化動詞、3 基本形は *fangen - fing - gefangen* (巻末の変化表を参照)。

→ よって、上の基本公式から、*anfangen* の 3 基本形は *fangen - fing an - angefangen*。

・非分離動詞 *verstehen* は、*ver-*が前綴り、*stehen* が基礎動詞である。

→ *stehen* は不規則動詞、3 基本形は *stehen - stand - gestanden* (巻末の変化表を参照)。

→ よって、上の基本公式から、*verstehen* の 3 基本形は *verstehen - verstand - verstanden* (あらためて過去分詞に *ge-*がつかないことに注意)。

◇ *beginnen* の基礎動詞である *ginnen* は、いまは使われておらず辞書にも掲載されていないが、過去にはきちんと存在していた。このため、*beginnen* も非分離動詞であり、過去分詞には *ge-*がつかず *begonnen* となる。ほか *vergessen*、*verlieren* などが似た事例。

◇ 外来語由来に由来する **-ieren 型動詞** (*-ieren* で終わる動詞) も、過去分詞に *ge-*がつかない。

\* ほかに、*-eien* で終わる動詞もこれに該当する。

補足練習問題 2

次の動詞の 3 基本形を答えよ (教科書既出ではない動詞には意味を付す)。

[設問 A] 分離動詞

1. *ausfüllen* \_\_\_\_\_

2. *zumachen* \_\_\_\_\_ (*vt.* ~を閉める)

3. *aufstehen* \_\_\_\_\_

4. *anrufen* \_\_\_\_\_

5. *mitbringen* \_\_\_\_\_

6. *umsteigen* \_\_\_\_\_

7. *zurückgeben* \_\_\_\_\_

.....  
[設問 B] 非分離動詞

8. bedauern \_\_\_\_\_  
9. begegnen \_\_\_\_\_  
10. vereinigen \_\_\_\_\_ (vt. ~を統一する)  
11. bekennen \_\_\_\_\_ (vt. ~を認める、告白する)  
12. bekommen \_\_\_\_\_ (vt. ~を得る、=get)  
13. entsprechen \_\_\_\_\_ (vi. 〈3 格〉に対応する)

[設問 C] -ieren 型など

14. philosophieren \_\_\_\_\_ (vi. 哲学的に思索する、哲学する)  
15. propagieren \_\_\_\_\_ (vt. ~を宣伝する)  
16. prophezeien \_\_\_\_\_ (vt. ~を予言する)  
.....

**教科書 Übung 1** (S. 45)

6~8, 10~12. 分離動詞や非分離動詞の 3 基本形については、まず不定詞から前綴りを除いて基礎動詞を抽出して考える。gefallen (非分離動詞) なら fallen、anschauen なら schauen の 3 基本形を書き出してみて、そこに **3** や **4** の要領で前綴りを加え直す。 (⇒本配付資料 S. 3)

9. vergessen については、過去分詞は非分離動詞に準ずる。 (⇒本配付資料 S. 3)

**教科書 Übung 2**

2. 前綴りの voll-は、分離動詞の前綴りである場合と非分離動詞の前綴りである場合の両方がある。この vollenden は後者。

4, 6, 9, 10. やはり分離動詞および非分離動詞の問題なので、上記 Übung 1 の 6~8, 10~12 の要領で考えること。

**連絡先など**

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 教員のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>